

『今こそ、行動のとき』



人材マネジメント部会幹事 鬼澤 慎人
(NPO 法人茨城県経営品質協議会 代表理事)

1年間、人材マネジメント部会へご参加いただきありがとうございました。また最後にこのような論文集をまとめることによって、参加したみなさんがこの1年で何を学び、気づき、そしてこれから自分がどのように行動していくのかを宣言（コミットメント）することは素晴らしいことだと思います。

さて、人材マネジメント部会でも度々お話をさせていただいてきましたが、約2年前に起こった米国での金融派生商品の破綻から始まった危機は、信用収縮による金融破たん、实体经济の大混乱、そして人々の生活にまで大きく広がり、まさに世界大恐慌です。これまでの不況と違い、この30年間で築き上げたひとつの大きな世界経済システムが崩壊してしまったので、世界中の国々が同時におかしくなり、現状ではどのように回復するのか、いつ頃回復するのがまったく想像もつかない状況です。

また日本国内だけを見ても、政治も経済もどうしようもないほどの大混乱となっています。そして各自治体も税収の大幅減少などから、予算を組むのもこれまでにないほど厳しい状況だと思います。

では解決策もすぐに見当たらないほどの大混乱の中で、私は、あなたは、どうすればいいのでしょうか。

いよいよ窮まっている状況の中で私たちは一人ひとり、傍観者、評論家、逃亡者、もしくは変革者になるのか、選択が迫られています。

日本は約1500年も続いてきた国です。先人たちが様々な困難を乗り越えてきてくれたお陰で、今の私たちは豊かな社会の中で生活させてもらうことができているのです。最近つくづく「感謝」という気持ちが、心に生まれています。

そして今、私たちは責任ある世代として、まさに未曾有の大危機に直面しながら、次の世代のためにもこの危機を乗り越えていかなければなりません。

「自分は何のために生まれてきたのか」

「自分は与えられたこの命を何に使うべきなのか」

「自分とは一体何なのか」

哲学や宗教などでよく使われる問いかけを、あえてここで書かせていただきます。

そして縁あって出会ったみなさんにもぜひ考えてもらいたいのです。

「気づき」とは、最終的には自分の生き方、人生脚本に気づくこと。

そしてそれは自分の意思によっていくらでも変えることのできるもの。

4月のスタートの時には、ちょっと熱く語る幹事団の話に、「まるで新興宗教のようだ」との感想をいただきました。

でも今はもうそう思う方もいないのではないかと願っています。

私たち一人ひとは微力ですが、決して無力ではありません。

『暗いと不平を言うよりも、自ら進んで明かりを灯しなさい。

誰かがやるだろうということは、誰もやらないということを知りなさい。』

(マザー・テレサ)

「できることからやる」のも良いですが、「やらなくてはならないことは何か」を常に考えて行動してください。

そして同じ思いを持つ人たちとネットワークをつくり、少しずつ渦を大きくして行ってください。

この論文集を何年か後に読み返したときに、「ああ、あの時が始まりだった」と思えることを楽しみにしています。

私もこの1年、人材マネジメント部会に参加していただいた方々から本当にたくさんのことを学び、気づかせていただきました。

ありがとうございました。